

$\alpha$  を複素数とする.  $z \neq -\alpha$  をみたす複素数  $z$  に対して,  $w = \frac{z+2\alpha}{z+\alpha}$  と定める.  
 $|z-1|=1$  をみたすようなすべての  $z$  に対して,  $|w-1|=1$  が成り立つ. 次の問いに答えよ.

- (1)  $\alpha$  を求めよ.
- (2)  $w = z$  をみたす  $z$  を求めよ.
- (3)  $z_0 = 1+i$  とし,  $z \neq z_0$  かつ  $z \neq -\alpha$  とする. 複素数平面上の 3 点  $A(z_0)$ ,  $P(z)$ ,  $Q(w)$  を考える. 直線  $AP$  と直線  $AQ$  が垂直に交わるような点  $P$  の全体が表す図形を, 複素数平面上に図示せよ.

(18 横浜国大 理工・都市科 3)

【答】

- (1)  $\alpha = -1$
- (2)  $z = 1 \pm i$
- (3) 略

【解答】

$$w = \frac{z+2\alpha}{z+\alpha} \quad (z \neq -\alpha) \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

- (1) ①より

$$\begin{aligned} |w-1|=1 &\iff \left| \frac{z+2\alpha}{z+\alpha} - 1 \right| = 1 \\ &\iff \left| \frac{\alpha}{z+\alpha} \right| = 1 \\ &\iff |z+\alpha| = |\alpha| \quad (\because z \neq -\alpha) \quad \cdots \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$|z-1|=1$  をみたすようなすべての  $z$  に対して, ②が成り立つような  $\alpha$  を求める.  
 $z = 2, 1+i$  はともに  $|z-1|=1$  をみたす. この  $z$  に対して②は

$$|\alpha+2| = |\alpha|, \quad |\alpha+1+i| = |\alpha|$$

となる.  $\alpha$  は点  $-2$  と原点  $0$  を結ぶ線分の二等分線上の点であり, かつ点  $-1-i$  と原点  $0$  を結ぶ線分の二等分線上の点でもある. したがって,  $\alpha$  は 2 直線の交点であり  $\alpha = -1$  である.

逆に,  $\alpha = -1$  であれば, ②は  $|z-1|=1$  であるから,  
 $|z-1|=1$  をみたすようなすべての  $z$  に対して, ②が成り立つ.

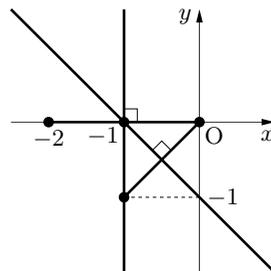
よって,  $\alpha = -1$  である

.....(答)

- (2) (1)より ①は  $w = \frac{z-2}{z-1}$  ( $z \neq 1$ ) であり

$$\begin{aligned} w = z &\iff \frac{z-2}{z-1} = z \\ &\iff z(z-1) = z-2 \quad (\because z \neq 1) \\ &\therefore z^2 - 2z + 2 = 0 \\ &\therefore z = 1 \pm i \end{aligned}$$

.....(答)



(3)  $z_0 = 1 + i$ ,  $z \neq z_0$ ,  $z \neq 1$ ,  $w = \frac{z-2}{z-1}$  のとき, 3点  $A(z_0)$ ,  $P(z)$ ,  $Q(w)$  については

$z \neq z_0$  より,  $P \neq A$  である.

$Q = A$  と仮定すると,  $w = z_0$  であり

$$\frac{z-2}{z-1} = 1+i \iff z-2 = (1+i)(z-1) \quad (\because z \neq 1)$$

$$\therefore iz = -1+i \quad \therefore z = \frac{-1+i}{i} = i+1$$

これは  $z \neq z_0$  に反する. したがって,  $Q \neq A$  である.

これより, 直線  $AP$  と直線  $AQ$  が直交するための条件は

$$\angle PAQ = \pm \frac{\pi}{2}, \text{ すなわち } \frac{w-z_0}{z-z_0} \text{ が純虚数となる}$$

ことである.

$$\begin{aligned} \frac{w-z_0}{z-z_0} &= \frac{\frac{z-2}{z-1} - (1+i)}{z - (1+i)} \\ &= \frac{-iz-1+i}{(z-1-i)(z-1)} \\ &= \frac{-i(z-i-1)}{(z-1-i)(z-1)} \\ &= \frac{-i}{z-1} \quad \dots\dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

③が純虚数となる条件は

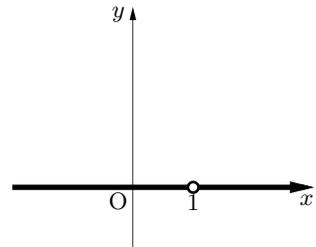
$$\frac{-i}{z-1} + \overline{\left(\frac{-i}{z-1}\right)} = 0 \text{ かつ } \frac{-i}{z-1} \neq 0$$

$\frac{-i}{z-1}$  はつねに 0 でないから, 求める条件は

$$\begin{aligned} \frac{-i}{z-1} + \overline{\left(\frac{-i}{z-1}\right)} &= 0 \\ \therefore \frac{-i}{z-1} + \frac{i}{\bar{z}-1} &= 0 \\ \therefore \frac{i(z-\bar{z})}{|z-1|^2} &= 0 \\ \therefore \begin{cases} \bar{z} = z \\ z \neq 1 \end{cases} \end{aligned}$$

すなわち,  $z$  は 1 でない実数である.

よって, 求める点  $P(z)$  全体が表す図形は, 右図の太線部分 (白丸を除く) である.



- ③が純虚数となる条件を次のように解いてもよい.

$$\begin{aligned} \frac{-i}{z-1} &= ki \quad (k \text{ は } 0 \text{ でない実数}) \\ \iff \begin{cases} z-1 = -\frac{1}{k} \\ z-1 \neq 0 \text{ (これは上式に含まれる)} \end{cases} \\ \therefore z &= 1 - \frac{1}{k} \end{aligned}$$

$k$  は 0 でない実数をすべて動くから,  $z$  は 1 でない実数をすべて動く.